

# 母子手帳を通じて母子の健康の向上に貢献

在カメルーン日本国大使館

世界銀行のデータによれば、カメルーンの乳幼児の死亡率は軽減されていますが、2020年時点で48/1000人であり、日本の2/1000人に比べて依然高い水準にあります。

2015年9月、第9回母子手帳国際会議がカメルーンの首都ヤウンデで開催されたことをきっかけに、カメルーンでも徐々に母子手帳の普及が進んでいますが、その普及には、JICA海外協力隊の活動も大きく貢献しています。

母子健康の向上、地域住民に対する健康改善と疾病予防の啓発活動を支援するため、2016年からンバルマイヨ市、2018年からエデア市の郡保健事務所へそれぞれJICA海外協力隊を派遣し、現地の医療従事者と一緒に母子手帳の普及を目的に活動しています。

母子手帳が子供のワクチン接種記録、成長状態の確認、栄養管理などの確認に役立つとともに、母親と医療従事者のコミュニケーションツールとなることで母子の健康が向上することが期待されています。

